

## ICAS 誕生!

平成 18 年 4 月から、東京大学を中心とする「サステナビリティ学連携研究機構」(Integrated Research System for Sustainability Science: IR3S)がスタートしました。この連携研究機構は、東京大学を基幹校として、茨城大学を始め京都大学、大阪大学、北海道大学が参加し、地球環境と社会の持続性(サステナビリティ)を確保するための新しい学問の創造をめざします。茨城大学は「アジア・太平洋の地域性を生かした気候変動への適応」をテーマに掲げ、その研究教育にあたる「地球変動適応科学研究機関(ICAS: Institute for Global Change Adaptation Science)」を、平成 18 年 5 月 1 日に設置しました。このテーマに関係する本学の研究者全員が取り組みます。(HP・パンフレット「学長メッセージ」より抜粋)



茨城大学長 菊池龍三郎

ICAS は、以下のような 3 部門と教育部門からなります。

- 第一部門：適応のための工学的手法開発に関する研究
- 第二部門：気候変動適応型の農業開発に関する研究
- 第三部門：適応のための生活圏計画・適応政策に関する研究
- 教育部門：平成 20 年 4 月新設の大学院コース設置に向けた検討

## ICAS 研究交流会の開催

ICAS 構成員の研究交流として、これまですでに 4 回の研究交流会を開催しました。

- 第 1 回 3 月 30 日(月) 水戸キャンパス・地域総合研究所 3 階  
発表者：三村教授・中川教授・小柳教授・安原教授・太田教授・小峯助教  
外岡助教・伊藤教授
- 第 2 回 4 月 28 日(金) 阿見キャンパス  
発表者：稲葉助教ほか
- 第 3 回 6 月 9 日(金) 日立キャンパス  
発表者：楠本さん・原口講師・斉藤修さん・村上教授
- 第 4 回 8 月 2 日(水) 水戸キャンパス・地域総合研究所 3 階  
発表者：林さん・杉山さん・Gabriel Gravelle さん・佐藤さん・木村教授

次回(第 5 回)研究交流会は<10 月 5 日(木) 阿見キャンパス・農学部こぶし会館 2 階・研修室 B>にて開催予定です。予定されている発表者は、ICAS 非常勤講師の町田聡氏、8 月に開催された内モンゴルのシンポジウムの発表者 2 名、9 月に開催されるインドネシア・ボゴールでのシンポジウムの発表者 2 名です。どなたでも参加できますので、興味のある方はどしどしお越しください。

## ICAS ~ゆかいな仲間たち~

byRH



## 設立シンポジウム開催

6 月 1 日(木)、茨城県立図書館において ICAS 設立シンポジウムが開催されました。小柳武和教授(工学部)司会のもと、220 名以上の参加を得て成功裏に終了しました。IR3S 副機構長の武内和彦教授(東京大学)は、サステナビリティ学の背景と大きな構想について、熱のこもった話をされました。幸田シャーマンさんは、環境問題を解決しようと努力している人を訪ねた経験に基づいて、一市民あるいはジャーナリストの視点から、分かりやすくかつ奥の深い話をされました。その後、三村信男教授(広域水圏環境科学教育研究センター)が ICAS の経緯と目的を説明し、4 名の先生方を加えてパネル討論を行いました。参加者からは、3 時間が短く感じられるようなシンポだったという感想がありました。IR3S と ICAS の方向性について、多くの方の間の認識の共有にまた一歩近づいたと思います。

パネリストは安原一哉教授(工学部)、堀良通教授(理学部)、太田寛之教授(農学部)、伊藤哲司教授(人文学部)でした。



幸田シャーマンさん



武内和彦先生



三村信男先生



堀良通先生 伊藤哲司先生 太田寛之先生  
安原一哉先生



小柳武和先生

## これからの予定

- 9 月 ウンナ氏(大連民族学院・生命科学学院助教授) 来日  
「熱帯農業」国際シンポジウム(インドネシア)  
「防災と適応策」国際シンポジウム(ベトナム)
- 10 月 ICAS 大学院講義試行  
John.E.Hay 氏(招聘教授・ワイカト大学名誉教授) 来日  
Du Minh Duc 氏(招聘助教授・ハノイ国家大学講師) 来日
- 11 月 27、28 日 国際シンポジウム(水戸キャンパス) 主催  
Iswandi Anas 氏(招聘教授・ボゴール農科大学教授) 来日
- 平成 19 年  
1 月 11-30 日 V.Elderton(招聘教授・カナダ) 来日  
2 月 国際シンポジウム(ハワイ) 東京大学との共催

## Call for Papers!

IR3S では、新学術雑誌「サステナ」(フリーペーパー)を刊行いたします。投稿についてのご案内など、ICAS 本部にお問い合わせ下さい。本学からは、木村競教授(教育学部)、伊藤哲司教授(人文学部)、小峯秀雄助教が編集委員として参加しています。—サステナは生協・ICAS 事務室・放送大学入り口にありませ—

本誌『ICAS NEWS』は、次号から「声」や「ひと」の欄を設け、皆様との双方向的なやりとりを目指します。投稿は ICAS 本部まで <icas@mx.ibaraki.ac.jp>

ICAS : <http://www.icas.ibaraki.ac.jp/>  
IR3S : <http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/>

関係 URL

## 総合科目「サステナビリティ学」(集中講義)を実施!

そもそも、ICAS 担当教員どうしが、お互い何を専門としているのかさえ判らない状況で ICAS はスタートしています。ICAS 教育部門は、平成 20 年度開講の大学院カリキュラム等を検討する部門ですが、教員間の意思疎通も兼ねて、複数の教員で担当する学部生向け集中講義(教養・総合科目)を今年度開講することにしました。受講生は約 140 名。公開講座として、一般の方からも数名の参加をいただきました。以下に概要を掲載します。

第 1 日目 6 月 3 日(土)

- (1) 第一講(9:00~10:30) イントロダクション:サステナビリティ学の射程(三村信男・広域水圏環境科学教育研究センター)
- (2) 第二講(10:40~12:00) 地球温暖化問題と沿岸域への影響と対策(三村信男・広域水圏環境科学教育研究センター)
- (3) 第三講(13:00~13:55) 沿岸域における適応策としての防災・環境保全策(安原一哉・工学部)
- (4) 第四講(14:05~15:15) 地球環境変動に伴う災害の低減(安原一哉・工学部)
- (5) 第五講(15:30~16:35) エミッションコントロールと対応策(小峯秀雄・工学部)
- (6) パネルディスカッション①(16:45~17:45) 環境変動を考慮した防災・減災(司会:伊藤哲司・人文学部)

第 2 日目 6 月 17 日(土)

- (1) 第一講(9:00~10:00) 地球規模の環境変動が健康に与える影響(上地勝・教育学部)
- (2) 第二講(10:10~10:50) 災害時の公衆衛生活動(上地勝・教育学部)
- (3) 第三講(11:00~12:00) 津波被害がタイ・ブーケット周辺の人々の心身に与えた影響(伊藤哲司・人文学部)
- (4) 第四講(13:00~13:30) タイ南部のモーケン族系の人々にとっての天災:ガッシー(鬼)の物語(伊藤哲司・人文学部)
- (5) 第五講(13:40~15:10) 「稲村の火」の再考/「三年ねたろう」の農業用水(大辻永・教育学部)
- (6) 第六講(15:25~16:35) なぜいま「サステナビリティ」が注目されるのか(木村競・教育学部)
- (7) パネルディスカッション②(16:45~17:45) 環境変動への人間の適応(司会:伊藤哲司・人文学部)

第 3 日 7 月 8 日(土)

- (1) 第一講(9:00~10:00) 茨城県から世界の生物的自然環境(特に植生)の現状(堀良通・理学部)
- (2) 第二講(10:10~11:00) 生物多様性を守ることの意義(堀良通・理学部)
- (3) 第三講(11:10~12:00) 世界の食料問題と持続可能な農村開発(中川光弘・農学部)
- (4) 第四講(13:00~14:00) 地球環境問題と自然人間共生思想(中川光弘・農学部)
- (5) 第五講(14:10~15:10) 平和学からみたサステナビリティへの脅威(蓮井誠一郎・人文学部)
- (6) パネルディスカッション③(15:30~17:10) 環境変動に応じた持続可能性(パネラー:堀良通・中川光弘・蓮井誠一郎・木村競・三村信男, 司会:伊藤哲司)
- (7) まとめ(17:20~17:40)(三村信男・広域水圏環境科学教育研究センター)
- (8) 授業アンケート(17:40~17:50)

3日それぞれの最後に、登壇された先生方をパネラーにパネルディスカッションを行いました。単なる連続授業ではないものを見せられたと思います。理学部の大西先生が、「新しい学問が生まれる瞬間に立ち会いに来た」とおっしゃったのを受け、安原先生が、「大学教員になってこんなのは初めてだ」と続けられました。最後は私も心が揺さぶられました。この場に立ち会えた学生たちは、幸運だなと思います。(伊藤哲司・人文学部)

## 各部門からのお知らせ—教育部門—

平成 20 年度開講の大学院コースを構想していますが、特任教授を今年度(平成 18 年度)から採用することなどから、後期の大学院授業でサステナビリティ学に関する授業を各研究科で開講、あるいは、既存の授業(の一部)として実施することになりました。各研究科の規則整備が待たれるところですが、以下、一覧にてご案内いたします。最新情報はホームページをご覧ください。

John.E.Hay	地球変動適応学特論 I	日立	10 月-11 月
Do.Minh.Duc	地球変動適応学特論 III	日立	10 月
Isiwandi Anas	地球変動適応学特論 IV	阿見	11 月
竹村牧男	環境倫理学特論	阿見	11 月下旬
矢守克也	防災心理学特論	水戸	12 月 15・16・17
桑原祐史ほか	GIS 特別演習		未定
V. Elderton	環境教育学特論	水戸	1 月

詳細は ICAS 本部までお問い合わせください。

ICAS 本部<icas@mx.ibaraki.ac.jp>

## ICAS 協力教員募集

ICAS ではサステナビリティ学の研究を幅広く推進するために、関連プロジェクトと ICAS 協力教員を募集いたします。関心をお持ちの皆様が応募して下さるようご案内申し上げます。なお、IR3S と ICAS の設立経過及び活動内容については表面の関連 URL をご覧ください。協力教員に関する詳細は ICAS 本部までお問い合わせください。ICAS 本部<icas@mx.ibaraki.ac.jp>

## ICAS ビデオ貸し出し中

ICAS の活動記録をビデオで収録。未編集ですがコピーをお貸しいたします。事務局までお問い合わせ下さい。

## ICAS ロゴ募集中!

厳密な審査により決定します。採用者には豪華プレゼントをご用意。事務局までお問い合わせ下さい。

## REPORT from Abroad -Thai-



タイのブーケットに行ってきました。ラチャパット大学を訪問し、茨城大学との交流に向けての話し合いをしてきました。また、津波に関わるその後の様子も調査してきました。

詳しくは、私のホームページを

ご覧ください。(伊藤哲司・人文学部)

<http://www008.upp.so-net.ne.jp/tetsujiyuko/>

## REPORT from Abroad -Australia-

オーストラリアでの学会発表とあわせて原住民(アボリジニ)を訪ね、彼らの自然との対し方、現代社会での問題点などを取材してきました。事前に得ていた情報の通り、彼らの伝統的な野焼きは単なる環境破壊ではなく、より甚大な山火事を未然に防ぐ知恵であった、といった、彼らのサステナビリティを身近に感じることができました。(大辻永・教育学部)



野生のカンガルーの群れ

## ICAS on Media

6 月 1 日(木) 茨城新聞 TV 面 設立シンポ(広告)

2 月 1 8 日(土) NHK

「NHK スペシャル 二夜連続シリーズ 気候大異変 第一回 異常気象 地球シミュレータの警告」

台風カトリーナの高潮シミュレーション(信岡尚道・工学部)

## 編集後記 はじめてづくし

初めての文理融合、大型企画です! 5 学部すべてからの教授陣で総合科目を行ったのも初めてだと思われ(担当の伊藤先生談)。この NEWS もはじめてです。皆様からの暖かいご支援・ご協力をお待ちしております。(HO)